

I. 広東省

1. 人事異動

●先頃、省党委員会は範中杰・惠州市副市長を肇慶市長にすることを決定し、9日、第13期肇慶市人代第2回会議で当選（8月7日付『廣州日報』、9日付『南方日報』）。

2. 反腐敗にかかる処分

●7日、省紀律検査委員会は曾慶栄・省華僑事務弁公室党組織書記を重大な紀律違反の疑いで調査中と発表（8月8日付『南方日報』）。

3. 省党・政府主要責任者の職責履行に関する実施細則を公布

●先頃、省党弁公庁・省政府弁公庁が「広東省党・政府主要責任者が法に基づく政治を打ち立てる第一責任者として推進する職務責任を履行するための実施細則」を公布するとともに通知を出し、各地区・各部門の責任者はそれに基づいて職務にあたるよう要求した（8月8日付『南方日報』）。

4. 万慶良・朱沢君・盧淳傑が「テレビ出演」して懺悔

●7日、省紀律検査委員会宣伝部、南方日報、南方クライアント端末が共同制作した「武松来了」（第2シーズン）という番組が放映され、腐敗で逮捕・処分を受けた万慶良（元広州市書記）・朱沢君（元梅州市書記）・盧淳傑（元潮州市長）が「テレビ出演」して懺悔の告白を行なった。統計によれば、広東省では第18回党大会～本年5月22日までに5万7374人が処分を受けた（先立つ5年間の2.5倍）（8月8日付『南方日報』）。

5. 胡春華・省党書記が東莞市を視察

●6日～9日、胡春華・省党書記が東莞市のCSNSプロジェクト、東莞・同済大学研究院、省スマートロボット研究院、東陽光製薬研究院、無創生物医学エンジニアリング（東莞）有限公司、東莞鉅威動力技術有限公司、松山湖丹邦科技有限公司、広東思谷スマート技術有限公司、広東瑞谷光網通信株式会社等を訪れ、科学技術イノベーションの進捗状況を視察し、責任者と踏み込んだ意見交換を行い、企業の生産・経営、技術開発、人材集め等に関する状況に対する理解を深め、サービス産業の発展、自主イノベーションを強化する方法とその効果について十分に評価した（8月9日付『南方日報』）。

※CSNS：China Spallation Neutron Source（中国破砕中性子源）。2011年に工事が開始され、2017年頃完成予定の第1次5か年計画の国家重要科学プロジェクトの1つ。中国科学院高エネルギー物理研究所が建設を進める核破砕中性子源となる基礎施設。当初の計画では2008年に工事開始、2013年運営開始予定だった。2008年、J-PARCセンター（日本の大強度陽子加速器施設）と同研究所が研究協力覚書に署名。

6. 王栄・省政協主席一行がアフリカを訪問

●8日～18日、公共外交を積極的に拡大し、「一帯一路」沿線諸国との実務協力を促進するため、エジプトのアレクサンドリア県・ナミビアのエロンゴ州・ザンビアのルサカ州から招待を受けた王栄・省政協主席率いる代表団が同3か国を友好訪問（8月9日付『南方日報』）。

7. 許瑞生・副省長がASEAN設立50周年茶話会に出席

●8日、上記茶話会に出席した許瑞生・副省長はASEANの在広州各国総領事館員、広東省で仕事・勉強・生活をしているASEAN諸国の友人に対し、心こもった挨拶と祝賀の意を表した。2013年に同省とASEAN諸国の貿易額は1,000億米ドルの大台を突破し、ASEANは現在、同省の第3の貿易パートナーとなった。2016年、同省と広州市に総領事館を置いているASEAN8か国との貿易額は1,138億米ドル（前年比1.7%増）（8月9日付『南方日報』）。

※ミャンマーとブルネイは広州市に総領事館を置いていない。

8. 許瑞生・副省長が猿丸雅之YKKグループ副会長一行と会談

●8日、上記会談で許瑞生・副省長は猿丸副会長一行の広東省訪問に歓迎の意を表し、次のように述べた。同省は現在、イノベーションによる発展戦略に力を入れて取り組み、産業の最適化・高度化を進めているので、YKKグループには供給構造改革と「三品」戦略の実施に積極的に加わっていただき、その製品の質と技術の水準を高め、川上・川下産業の転換・高度化を引っ張っていただきたい。また、同省は環境保護も非常に重視しているので、同グループには製品生産の省エネ・CO₂削減においても、引き続き高基準で厳格な要求を維持し、環境保護の研究開発に力を入れ、グリーン発展を実現してほしい（8月9日付『南方日報』）。

※「三品」戦略：アパレル産業において、種類を増やし、品質を向上させ、ブランドを創出すること。

9. 林少春・常務副省長がシンガポールの建国レセプションに出席

●11日、林少春・常務副省長が上記レセプションに出席し、次のように述べた。広東省はこれまで一貫してシンガポールとの交流・協力を重視し、強化してきた。特に2008年にシンガポール・広東協力理事会が設立されてからは、双方のハイレベルによる相互訪問が絶えず行われており、企業間のつきあいも日増しに密接になっている。このところ、両地域の経済・貿易は絶えず拡大し、双方の貿易総額も年々増加しており、科学技術、観光、文化、教育トレーニング、医療・衛生等の分野における交流・協力の成果も豊かである。同省は同国と手を携え、共に進み、各分野における双方の交流・協力を更に強化・拡大していきたい。劉悦倫・広州市政協主席も同席（8月12日付『南方日報』）。

II. 広州市

1. 広州市バイオ産業連盟の設立

●8日、上記連盟の設立大会が開催され、温国輝・市長、葉牛平・副市長が出席するとともに、広州開発区と同連盟の戦略的協力枠組み協定の署名式に立ち会った。同市のバイオ医薬分野のリーディングカンパニー、大学の科学研究機関、医療機関、投資機関等から120の同連盟会員企業・機関が集まった（8月9日付『広州日報』）。

2. 広州・ハノイ国際貨物列車が運行開始

●9日、広東省では初となる広州発ハノイ行の中国・ベトナム国際貨物列車が運行を開始した。同列車は広州市の大朗駅を出発し、広西チワン族自治区の凭祥税関を経由して、3日でハノイに到着する。主な貨物は仕入れ商品、電子製品、通信設備、雑貨等（8月9日付『広州日報』）。

3. 広州市・仏山市・中山市の国有企業が合資企業を設立

●9日午前、広州港株式会社、仏山市公共事業ホールディング有限公司、中山都市建設グループ有限公司が、南沙開発区管理監督委員会で協力協定に署名し、広州南沙共同コンテナ埠頭有限公司（合資企業）を設立し、広州港南沙港エリア第4期工事の建設・運営を行なっていくこととなった。温国輝・広州市長、蔡朝林・南沙区党書記、広州市副市長の馬文田氏と葉牛平氏、趙海・仏山市副市長、袁永康・中山市副市長等がそろって署名式に出席（8月10日付『広州日報』）。

4. 陳建華・市人代主任一行が南米を訪問

●7月31日～8月9日、キューバのハバナ市、ペルーのアレキバ市、ブラジルのレシフェ市それぞれの招待を受け、陳建華・市人代主任率いる市人代常務委員会友好訪問団がキューバ・ペルー・ブラジルを訪問。7日、陳主任はブラジルのレシフェ市議会議長と市人代・市議会協力・交流強化に関する覚書に署名し、両市の友好関係締結10周年記念イベントに出席するとともに、広州市を代表してキワタの彫刻を贈呈した（8月10日付『広州日報』）。

5. 華電広州増城CCHPプロジェクトが着工

●10日午前、投資総額4.4億元、現在、世界最先端で高効率の9H型ガスタービンを採用したCCHPプロジェクトが着工し、温国輝・市長、趙建国・中国華電集团董事长が着工式に出席するとともに挨拶を行なった。設計では年間の発電量が43.84億キロワット・アワー、熱供給量が861.22GJ、生産額が約40億元となっている（8月11日付『南方日報』、12日付『広州日報』）。

※CCHP：Combined Cooling, Heat and Power（冷却・熱・電力複合併給）システム。

Ⅲ. 深圳市

1. 人事異動

●8日午後、南山区幹部大会が開かれ、省党委員会が王強・南山区長を同区党書記とすることを承認した旨通達された（8月9日付『深圳特区報』）。

2. 反腐敗にかかる処分

●9日、省人民検察院は先頃、重大な紀律違反の疑いで調査していた湯耀治・元市政府弁公庁巡視員（正庁級）の逮捕を決定したと発表（8月10日付『深圳特区報』）。

3. 市党常務委員会議の開催

●4日午前、王偉中・市党書記主宰の上記会議で、上半期の経済動向について検討が行われ、安定の中で経済成長を進めるという業務の全体基調は堅持しつつ、下半期は上半期よりも良い状態を確保するよう強調（8月7日付『深圳特区報』）。

4. WeBank等がBCOSを正式に発表

●先頃、深圳前海WeBank株式会社、上海万向ブロックチェーン株式会社、矩陣元（Juzix）技術（深圳）有限公司が共同で、国内初となる安全で制御にも商用にも使えるオープンソースのブロックチェーン技術プラットフォームBCOSを発表するとともに、完全にオープンソースとして、相互信頼で結びついた多角的協力コミュニティを構築し、分散型ビジネス環境のシステム形成を推進していく旨宣言した（8月8日付『深圳特区報』）。

※BCOS：Block Chain Open Source。

5. 深圳市で初の無人コンビニがオープン

●8日午前、深圳湾天虹本部ビルで初の無人コンビニ「Well GO」がオープンした。このコンビニに入るには、まず会員であることを証明する必要があるが、天虹会員は「虹領巾アプリ」でコードを読み込めば直接入ることができる。新ユーザーはウィーチャットで「天虹」をフォローし、携帯電話番号を登録しなければならない（8月9日付『深圳特区報』）。

6. 深圳・ミラノ直行便が就航

●10日、アリタリア航空が運航する深圳・ミラノ直行便が就航した。これは深圳国際空港（宝安空港）では初の海外航空会社による運航便となった（8月11日付『深圳特区報』）。